

ステンレス鋼帯がい装 Cat.5e屋外用防鼠ケーブル

NEW



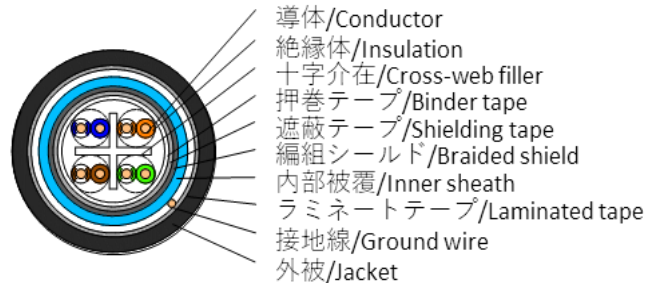
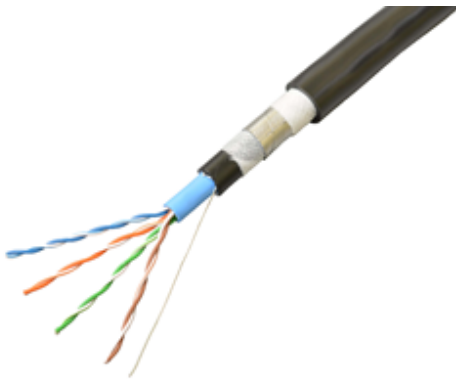
- ・ステンレス鋼帯がい装を施し、げっ歯類の咬害をブロック。
- ・LAPシースケーブルなので屋外での配線も可能。
- ・PoE/PoE+/4P PoE 対応

🏠 情報ネットワークの神経となる大切なLANケーブルを嚙害から守りませんか？

こんな所に最適！！



構造図



型式・品名	0.5-4P NSED(TSB)-LAP(SUS)-V
導体サイズ	AWG24
最外径(mm)	11.8mm
内部シース径(mm)	外側：7.8mm、内側：5.5mm
概算質量(kg/km)	150
標準条長(荷姿)	100m(束巻) / 300m(ドラム) / 500m(ドラム)
備考	PoE、PoE+、4P PoE

ケーブルに対する鼠族の耐咬害評価

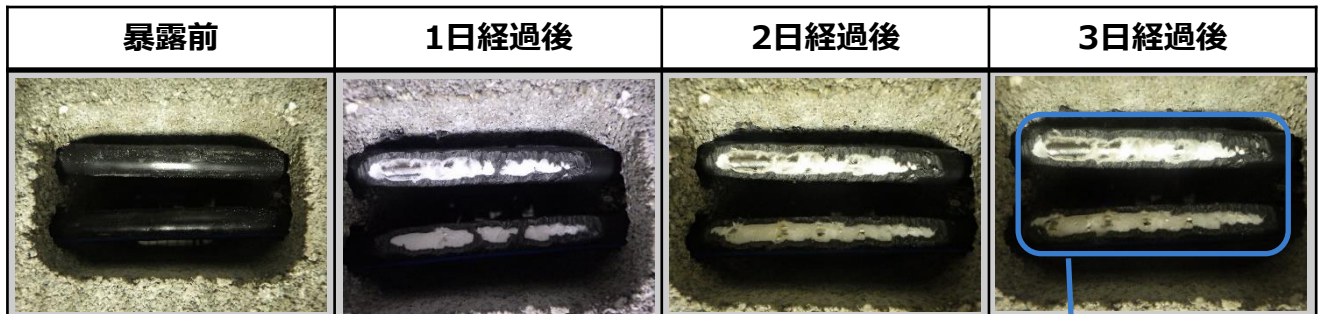
試験場所：イカリ消毒(株)技術研究所 個別飼育室

供試動物：ラット

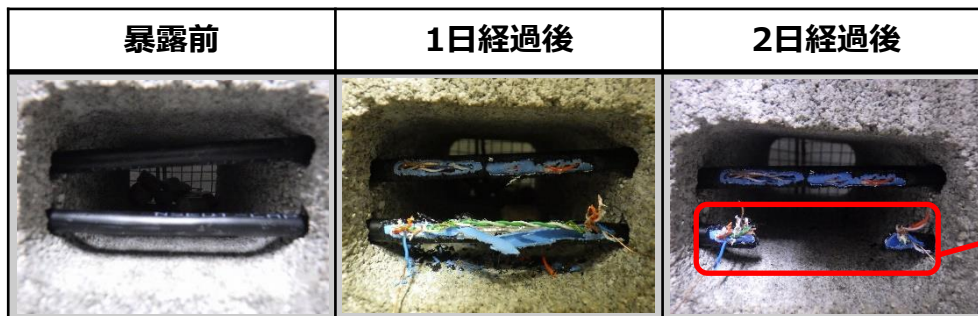
試験品：0.5-4P NSEDT(SB)-LAP(SUS)-V

対照品：0.5-4P NSEDT-LAP

◆試験品：0.5-4P NSEDT(SB)-LAP(SUS)-V



◆対照品：0.5-4P NSEDT-LAP



ステンレスで
貫通せず保護

完全な断線

◆結果

試験結果では、対照品は全ての検体で外被および内部被覆は破られ、内部の導体の露出が認められた。また、ケーブル自体の断線、内部の導体の断線までも見受けられた。

一方、試験品は外被部分および保護テープ部分は咬害を受け破られていたが、ステンステープ部分は破られておらず、その内側部分の露出は認められなかった。

以上より、試験品は対照品よりも耐咬害性が高く、特に試験品は短期間のネズミの曝露に高い耐咬害性を示すと考えられる。

◆試験方法

- ① 建築用にブロックを加工し、内側に試験品もしくは対照品を配置した際に、供試動物が自由に通過できないようにした。
- ② この建築用ブロックを個別飼育ケージ内に配置し、内部にネズミ飼育用固型飼料(以下、餌と記す)を置いた。
- ③ 対照品の咬害試験開始3日前に木製の棒を建築用ブロック内に設置し、供試動物を個別飼育ケージ内に入れ予備試験を開始。予備試験では試験の環境に慣れさせ、配置した物を齧れば餌に到達出来る事を覚えさせた。予備試験によって供試動物が木材を突破し餌を喫食していることを確認した場合④以降に移行した。
- ④ 本試験では対照品を建築用ブロック内に配置し、供試動物を個別飼育ケージ内に入れ試験を開始した。試験開始後、供試動物が対照品を齧りきるかどうかを毎日確認し、その状況を写真で確認記録した。対照品を齧り、建築用ブロック内の餌の喫食が確認された際に試験を終了した。これを最大3日間継続し、3日経過後には餌の喫食の有無にかかわらず試験を終了した。
- ⑤ ④終了後、一定期間インターバルを設けた後、対照品を試験品に入れ替えて同様の試験を実施。
- ⑥ その他試験期間中の飼育方法は、イカリ消毒(株)の飼育プロトコル(12時間毎の明暗転換条件・25°Cエアコン環境下など)に準じて行った。